

図書とインターネット、どちらも使って 古記録・古文書を探す

戦国時代を中心に・初級編

いいとこドリで
図書もデジタルも
使いこなそう！



歴史小説や大河ドラマに心を動かされ、「歴史上の人物の生きた証が見たい!」。そんな時には古記録や古文書を探してみませんか。当時の日記など（古記録）や歴史上の人物の手紙（古文書）からは当時の風習・文化、人々の息吹が伝わってきます。

古記録や古文書を自分で探すのは難しそう? そんなことはありません。便利なデータベースで古文書を一括検索、古記録のデジタル画像を家でも見られる…など、手軽にインターネットからも調査ができる時代となりました。とはいえ、まだまだ図書にしか掲載がない情報もたくさんあります。

このリストでは、**図書とインターネット、どちらも使って**、戦国時代を中心とした古記録・古文書を探す方法をご紹介します。



目次

データベース	………	p1-2
図書	………	p3
埼玉県の資料	………	p4
埼玉県の機関	………	p4
さっそく調べてみよう	…	付録p1-2

このリストで紹介する資料の使い方

データベース：①～⑩の番号を付け、名称を『二重山括弧』で囲んでいます。
※ご自身のスマホなどから見られます。

図書：①～⑩の番号を付け、書名を『かぎ括弧』で囲んでいます。
※すべて県立熊谷図書館で所蔵しています。

埼玉県の資料：①～⑦の番号を付けています。
※①～⑥は県立熊谷図書館で所蔵しています。

埼玉県立熊谷図書館 人文・社会科学資料担当
熊谷市箱田5-6-1 Tel：048-523-6291

データベース

インターネット上で、誰でも利用できるデータベースを紹介します。古記録や古文書のデジタル画像を見ることができたり、古記録を全文検索できる便利なデータベースもあります。

① 《国書データベース》 (<https://kokusho.nijl.ac.jp/> 国文学研究資料館)



国内外の多くの機関等が所蔵する、古典籍等資料の書誌情報が検索できるデータベース。一部の資料はデジタル画像が閲覧できる。日記や記録などの編纂資料を探すときに役立つ。

② 《国立国会図書館サーチ》 (<https://ndlsearch.ndl.go.jp/> 国立国会図書館)



国立国会図書館だけではなく、全国の都道府県立図書館や、公文書館などの類縁機関から資料の所蔵を検索できる。類縁機関が公開する古記録のデジタル画像などへのリンクがある資料もある。③《国立国会図書館デジタルコレクション》のデータもまとめて検索可能。

③ 《国立国会図書館デジタルコレクション》 (<https://dl.ndl.go.jp/> 国立国会図書館)



国立国会図書館で収集しているデジタル資料を閲覧できるサービス。
「古典籍資料（貴重書等）」からは、10万点以上の和古書・漢籍が誰でも閲覧できる。

④ 《国立公文書館デジタルアーカイブ》 (<https://www.digital.archives.go.jp/> 国立公文書館)



「武州文書」、「家忠日記」などの江戸幕府から引き継がれた蔵書や、明治以降の内閣が収集した文献の一部がデジタル画像で閲覧できる。その他、所蔵している古文書や古記録などのデジタル画像も多数公開している。簿冊（書名）だけでなく、件名（資料・文書の名称）や関連事項でもヒットするので、文書を探すのに便利。

《東京大学史料編纂所データベース検索》

(<https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/> 東京大学史料編纂所)



「史料の所在」「できごとを主題に」など、各種テーマに合わせたデータベースが20種類以上まとまっている。横断検索も可能だが、データベースの特色を知り使い分けることで求める情報が手に入りやすくなる。以下に《東京大学史料編纂所データベース検索》内のデータベースを一部紹介する。

⑤ 《大日本史料総合データベース》

古記録
古文書

②『大日本史料』、「史料稿本」（大日本史料の草稿）、『史料綜覧』の本文を含めた検索ができ、検索結果から該当の②『大日本史料』「史料稿本」の画像が見られる。

⑥ 《奈良時代古文書フルテキストデータベース》

古文書

大宝2年（702）～宝龜11年（780）の古文書を網羅的に収録した③『大日本古文書編年文書』の全文を検索することができ、検索結果から該当箇所の画像が見られる。

⑦ 《古文書フルテキストデータベース》

古文書

③『大日本古文書 家分け文書』などを全文から検索することができ、一部の資料は検索結果から該当資料の画像が見られる。検索対象は中世文書が中心である。

⑧ 《古記録フルテキストデータベース》

古記録

④『大日本古記録』の全文検索ができ、検索結果から該当箇所の画像が見られる。

⑨ 《所蔵史料目録データベース（Hi-CAT）》

古記録
古文書

東京大学史料編纂所所蔵の史料・図書を検索するためのデータベース。史料の解題や、画像が見られるものもある。

⑩ 《日本古文書ユニオンカタログ》

古文書

日本列島上で作成された古文書の網羅を目指して作成されており、平安時代から安土桃山時代（9～16世紀）を中心とした、史料編纂所が集めた写本・写真・デジタルデータ・刊本史料集、所外サイトの文書などが検索できる。読みたい資料をどこで所蔵しているか、どの図書に掲載されているか調べる時に便利。

東京大学史料編纂所の起源は、明治政府の史料編輯国史校正局だよ。塙保己一が開設した和学講談所を引き継いだ事業だったんだって。

国立公文書館の内閣文庫には、塙保己一が設立した和学講談所の資料や、徳川家康の蔵書が元になった紅葉山文庫などの資料が保存されているよ。

貴重な資料をデジタル画像で公開してくれるのは嬉しいね。画像の二次利用は各ウェブサイトの記載を確認しよう。



図書

古記録や古文書について調べるときに参考になる資料を紹介します。以下は定評のある大部の資料で、一部は書庫で保管しています。利用の際は職員にお声がけください。



① R210.03/コ 『国史大辞典』（国史大辞典編集委員会編 吉川弘文館 全15巻）

古記録
古文書
館内利用
のみ

日本歴史全領域をおさめ、さらに考古学、民俗学、国語学、国文学等の隣接分野にもおよぶ 54,000点の項目を50音順に配列した歴史辞典。

② 210.088/71 『大日本史料』（東京大学史料編纂所編 東京大学出版会 1901-）

古記録
古文書

歴史上の重要事件を「綱文」と称する事件の概要をあらわす文章で示し、その関連史料を列挙した大部な図書で、現在も続刊中。仁和3年（887）から慶応3年（1867）までの約980年を16の編に分けて編纂している。⑤《大日本史料総合データベース》で検索できる。

210.08/シ 『史料綜覧』（東京大学史料編纂所編 東京大学出版会 全17巻）

『大日本史料』の「綱文」と典拠史料名を抜き出したもので、『大日本史料』の目次に近い役割を持つ。『大日本史料』刊行前の、寛永16年（1639）までの調査に活用できる。

③ 210.088/71 『大日本古文書』（東京大学史料編纂所編 東京大学出版会 1901-）

古文書

685年から780年までの奈良時代の文書を編年順に配列した「編年文書」、諸家・諸寺社の所蔵文書を収めた「家わけ文書」、1853年以降の外交文書を収めた「幕末外国関係文書」の3種からなる古文書集。「家わけ文書」は現在も続刊中。一部の資料は⑥《奈良時代古文書フルテキストデータベース》、⑦《古文書フルテキストデータベース》で検索可能。

④ 210.088/71 『大日本古記録』（東京大学史料編纂所編 岩波書店 1952-）

古記録

各時代の主要な日記に、校訂を加えて翻刻したもの。各史料の末巻に内容索引と、その史料の解題、著者年譜、略系図が収められている。⑧《古記録フルテキストデータベース》で検索可能。

⑤ 210.47/セ 『戦国遺文』（東京堂出版 1989-）

古文書

後北条氏編、武田氏編など、戦国大名ごとに編年順でまとめられた古文書集。ほかに『平安遺文』『室町遺文』『鎌倉遺文』『南北朝遺文』などの史料集が刊行されている。

⑥ 210.08/コ 『国史大系 新訂増補』（黒板勝美、国史大系編集会編輯 吉川弘文館 全66巻）

古記録

「古事記」から「徳川実紀」など近世までの古典籍を収め、校訂を加えて刊行した叢書。

⑦ 210.088/シ 『史料大成 〔増補〕』（増補史料大成刊行会編 臨川書店 全45巻・別巻3冊）

古記録

平安時代から室町時代までの公家の日記を収録した「史料大成」を増補した叢書で、「兵範記」「中右記」などを収録。『続史料大成』には武家や寺社の日記も収められている。

⑧ 210.088/シ 『史料纂集』（続群書類従完成会 1967-）

古記録
古文書

重要なものでありながらこれまで翻刻された資料が未刊であった、古代から近世までの史料を中心に編纂されており、古記録編と古文書編から成る。

⑨ 081/7 『群書類従』（塙保己一編纂 続群書類従完成会 全30巻）

古記録

江戸時代に塙保己一が編纂した、日本の古代から近世までの古書を収録した叢書。

③《国立国会図書館デジタルコレクション》で、昭和初期までに刊行された版の『群書類従』と続編の『続群書類従』が閲覧できる。

⑩ 210.08/カ 『改定史籍集覧』（近藤瓶城原著 臨川書店 全32巻・別冊1冊・総目解題及書目索引1冊）

古記録

『群書類従』に収められていない資料を集めた『史籍集覧』を改訂したもので、戦国時代前後の合戦記などを多く収めている。『史籍集覧』の続編として『続史籍集覧』も刊行されている。

埼玉県の資料

埼玉県に関する古記録や古文書を調査する際に有用な図書とデータベースです。以下は古記録や古文書の内容が掲載されているものを選びました。このほかにも、郷土の歴史を調査する際には、各市町村誌などにぜひ目を通してみてください。



- ① S290.1/3 『新編武蔵風土記稿』（内務省地理局 全80巻）
S290.1/3 『新編武蔵風土記稿〔第4期〕（大日本地誌大系）』（雄山閣 全12巻、索引）

地誌
古文書
館内利用
のみ

徳川幕府が編纂した地誌で、郷村別に沿革・支配関係・古文書などを収録している。
③《国立国会図書館デジタルコレクション》で、写本と明治17年に内務省地理局から刊行された版（国立公文書館内閣文庫本）が誰でも閲覧できる。県立図書館では上記明治17年に刊行された版のほか、『大日本地誌大系』（雄山閣）などの所蔵あり。

- ② S200.8/4 『埼玉の中世文書』（埼玉県立図書館編 埼玉県立図書館 1965）

古文書 県内所在の、慶長末年までの古文書の図録で、現物写真と所在地の記載がある。
下記⑦《ジャパンサーチ（埼玉県ページ）》で公開している。

- ③ S200.8/5 『新編武州古文書 上』（杉山博、萩原竜夫編 角川書店 1975）
S200.8/5 『新編武州古文書 下』（杉山博、萩原竜夫編 角川書店 1978）

古文書 上巻は「武州文書」「諸州古文書」武州の部に「新編武蔵（国）風土記稿」採録分を合わせて1,702点、下巻は新たに発見された文書988点を収める。下巻巻末に「編年総目録」として文書の年代の一覧があり、出来事から文書を探すときに便利。

- ④ S201/4 『新編埼玉県史 資料編』（埼玉県編 埼玉県 1979-1991）

古記録
古文書 全26巻のうち、5-8巻に、埼玉県に関する中世の古文書と記録が収められている。古文書編には現物写真を多数掲載し、5巻付録に「史料別目録」、5-6巻の巻末に花押一覧などを掲載している。

- ⑤ S290.8/4 『埼玉叢書 第1-7巻〔新訂増補〕』（稲村坦元編 国書刊行会 1970-1974）

古記録 埼玉県に関連する地誌、系図、社寺縁起等を所収した全7巻の叢書。

- ⑥ S200.8/4 『埼玉県古文書所在確認調査目録』（埼玉県立文書館編 埼玉県教育委員会 1978）

古文書 「埼玉の中世文書」の後続の調査目録で、現物写真の掲載が多い。「家別所在目録」「中世文書目録」「寛永以前検地帳目録」の三部に分け、寛永以前の古文書の所在確認調査結果を記している。

- ⑦ 《ジャパンサーチ（埼玉県ページ）》
(<https://ipsearch.go.jp/organization/saitamapref> 国立国会図書館)

古記録
古文書 県立文書館や県立歴史と民俗の博物館など、埼玉県立の文化施設8館の収蔵資料を横断検索できるシステム。そのうち県立図書館が公開している古典籍や絵図などは、デジタル画像が閲覧できる。



埼玉県の機関

古記録
古文書

《埼玉県立文書館》(<https://monjo.spec.ed.jp/> 埼玉県立文書館)

埼玉県地域の中近世から近現代に及ぶ古文書類、『新編埼玉県史』編さん時の収集資料など、130万点を超える記録資料を収蔵している機関。「古文書解読講習会」などの講座や、埼玉県に関する史料を用いた展示なども開催している。



さっそく調べてみよう

1 書名や著者から古記録を探す

質問：連歌師である宗長の「東路のつと」が見たい。写本、刊本、解説をそれぞれ確認したい。
「東路のつと」には埼玉の風景が描かれていると聞いた。

調査方法：

①《国書データベース》を〈東路のつと〉で検索する。

「東路の津登」がヒットする。《国書データベース》では、刊本の情報や所蔵情報などの書誌事項が確認でき、「〈備〉日本古典文学大辞典に解説あり。」「〔活〕群書類従紀行・続帝国文庫続紀行文集・房総叢書二（抄）」の記載が見られる。また、同ページ下部の所蔵機関のリンクから、写本がデジタル画像で見られるものもある。

このことから、⑨『群書類従（紀行部）』に活字版（刊本）の掲載があり、『日本古典文学大辞典』（岩波書店）に解説があることがわかる。

①『国史大辞典』の「東路の津登」の項を確認する。

永正6年に駿河を発ち、関東歴遊の後、鎌倉に着くまでの宗長の紀行であるとして簡単な解説が書かれている。また上記 ①《国書データベース》と同様の刊本の情報あり。



この資料以外にも、「東路のつと」を解説・掲載している資料はたくさんあるよ。さらに詳しく調べたいときは、図書館司書に相談してみよう。

2 古文書や古記録を内容から検索する

質問：戦国時代には、長柄武器の主流が薙刀から槍へ変化したと聞いた。
どれだけ戦場で槍（鏑：やり）が用いられていたか、当時の記録から知りたい。

調査方法：

⑧《古記録フルテキストデータベース》を〈槍〉や〈鏑〉で検索する。

天正10年12月7日『上井覚兼日記』の「（略）分捕被申、鏑疵ニヶ処被蒙」などの記述が見つかる。『上井覚兼日記』は ④『大日本古記録』に所収されており、データベースのリンクからデジタル画像も閲覧できる。デジタル画像へのリンクがない（または『大日本古記録』に掲載されていない）史料は、①《国書データベース》や、古記録を多く所収している

⑧『史料纂集 古記録編』、⑦『史料大成〔増補〕』などを調査してみるとよい。

⑦《古文書フルテキストデータベース》を〈槍〉や〈鏑〉で検索する。

「毛利家文書 天文廿一年八月廿八日 毛利元就同隆元連署軍忠状」や、様々な合戦太刀討注文などの、戦果を記した文書が多数見つかる。「毛利元就同隆元連署軍忠状」は ③『大日本古文書』に収録されているため、該当箇所のデジタル画像が閲覧できる。

「天文廿一年七月廿三日（略）或被疵、或討死人数、備左」として、人名と「鏑疵」「矢疵」などの記載あり。

軍忠状は、中世武家文書の一つで、戦いの場所や勲功、敵を倒した数や被害を上申する文書だよ。（参考：『世界大百科事典』）

「毛利元就同隆元連署軍忠状」には「礫」の記述もあるね。戦場で石を投げていたのかな？ 投石器があったのかも？ また図書館で調べてみよう！



さっそく調べてみよう

3 埼玉に関連するできごとから古文書や古記録を探す

質問：天正年間に岩槻城を修築したことについて書かれている古文書や古記録が見たい。

調査方法：

⑤《大日本史料総合データベース》を〈岩槻城〉で検索する。

「大日本史料 11編912冊197頁」に掲載予定の項目である、「天正16年3月20日 武蔵岩槻の太田氏房、道祖士図書助等をして、岩槻城の修築を監せしむ」などの記述がヒットする。

（「大日本史料 11編912冊」は現在は未刊行なので、『史料綜覧 巻12』で目次と関連資料が確認できる。）

参考資料として『武州文書』が挙げられている。『武州文書』は、現物が県立図書館で閲覧できるほか、**⑦《ジャパンサーチ（埼玉県ページ）》**でデジタル画像が見られる。

岩槻城の修築について『武州文書』に載っていることが判明したね。
でも『武州文書』には索引がないから、どの古文書が岩槻城の修築に関連するのかわかりにくいよ。



『武州文書』を収めている**③『新編武州古文書 下』**には「編年総目録」があるよ。
目録から該当しそうな太田氏房の文書を探して確認してみよう。



③『新編武州古文書 上』に所収の「五三 太田氏房印判状」に「右此度御留守御普請被仰付、何分にも奉行人如作事、晝夜岩付ニ有之可相稼（略）（天正十六年）戊子三月廿日 道祖士圖書殿」などの関連記述が確認できた。

③『新編武州古文書 上』は刊本（印刷された図書）だから読みやすいね。
この古文書の実物の写真が見てみたいな。



②『埼玉の中世文書』、**④『新編埼玉県史 資料編』**、**⑥『埼玉県古文書所在確認調査目録』**には古文書の実物写真が多く掲載されているよ。調べてみよう。
ただし、実物写真がない場合もあるよ。実物の所蔵者を知りたいときは、埼玉県立文書館が刊行する『埼玉県立文書館収蔵文書目録』などが役立つよ。



②『埼玉の中世文書』に上記「太田氏房印判状」の実物写真の掲載が見つかった。

岩槻城について書かれていると思われる市町村史『**岩槻市史**』を確認してみる。

『岩槻市史 通史編』（岩槻市市史編さん室 1985）のp340-343に「秀吉との戦いに備えて」の項があり、「岩付城の修築は天正十四年（一五八六）から同十八年まで行われたとみられ、岩付領の各所から農民が普請人足として駆り出された。」など詳細な解説あり。

関連する文書は『岩槻市史 古代・中世史料編1〔2〕 古文書史料』（岩槻市市史編さん室 1983）に掲載されている。網文（事件の概要をあらわす文章）、本文、訓読、注がついており、わかりやすい資料となっている。

特定の場所の記録を探すときは、その地の市町村史も忘れずに調査しよう。
県立熊谷図書館では、県内すべての市町村史を所蔵しているよ。

